

保健師 ルポ



保険給付係の皆さん(筆者前列の右から2人目)

健康なまちを目指して

瀬戸内町 保健福祉課 保健予防係 保健師 前島 和恵



美しいリアス式海岸を形成する大島海峡

瀬戸内町の紹介

瀬戸内町は鹿児島市より南方420kmの洋上に浮かぶ奄美大島最南端に位置し、役場の正面に面している大島海峡をはさんで加計呂麻島、請島、与路島の有人3島を含む総面積約240km²に及ぶ行政区域を有しています。面積の約87%が山林で占められ、300〜400mほどの山岳が連なり、急斜面となつて海岸に迫っています。海岸線は典型的なリアス式海岸を形成し、水深が深い入り江が多いため、水産業が盛んで特にクロマグロや真珠の養殖が有名です。また、大島海峡は全国36か所指定されている避難港の中でも、最も避難水域も広く深さも20m以上あるため、台風時には近海を航行していた大型船

が何隻も避難し、夜は海上がパレードのように見えることもあります。山林が多いため、集落は沿岸に散在しており3島の有人島を含め、56の集落が形成されています。各集落はそれぞれ距離があるため、集落ごとの催事も多くあり、諸鈍シバヤは国から重要無形文化財として指定されているため県内外からの観光客が多く来られます。



重要無形文化財として指定されている諸鈍シバヤ

人口は昭和30年の2万7千人弱をピークに徐々に減少が始まり、現在は8千6百人程度、高齢化率は37・4%となっています。

今年で町政65周年を迎える本町は「誰ひとり取り残されず、幸せで輝いていくシマ」、「夢と希望をもつて力強く生きていくシマ」、「いろんなことにチャレンジできるシマ」そして「ひとが輝く夢

と希望に満ちた魅力あるシマ」を基本理念とし、誰もが安心し、いきいきと暮らせるまちづくりを進めています。

本町の保健師は5名、業務担当制でそれぞれの事業を行っています。私は健康増進事業と国保健康事業を担当しており、管理栄養士2名と一緒に国保健康事業を行っています。

データヘルス計画を基に

平成28年度より前倒しで保険者努力支援制度が開始されました。私は前年度より国保健康事業の担当となり、データの見方や保健事業の展開など右往左往の日々で、正直この制度が開始されたときにはなにをどうするのか、新しい事業をしていかなければならないのか不安しかありませんでした。しかし、平成27年度にデータヘルス計画を策定し、これまでの健診結果状況や疾病の状況、医療費の詳細が明確になり、既存の保健事業の方向性、根拠をよりしっかりと位置付けることができました。そして保険者努力支援制度に保健事業をすり合わせていくことよって毎年事業展開の方法や結果を評価するようになり、今後の見通しが立てられるようになってきました。まだまだ足りない部分はありませんが、PDCAサイクルを毎年しつ

かり行っていくことで、より焦点を当てた保健事業が展開できるようになってきたと思います。

県下最下位になった 特定健診実施率

本町の特定健診実施率は特定健診開始当初から加計呂麻、請島、与路島の集落巡回をしたり、同窓対抗をしてみたり、様々な受診勧奨をそれまで行ってきましたが、なかなか実施率が伸びない状況でした。平成27年度には特定健診実施率30・9%で県下最下位にもなりました。そこで、集団健診の勧奨案内や実施スタイル、医療機関からの情報提供状況など保健事業に係る専門職、事務職と共に見直し、受診勧奨の案内用紙を年齢ごとに内容に変化をつけたり、町内の医療機関の事務の方、医師、看護師に情報提供の申請方法等を再度確認して協力体制を強化していただきました。そして保険者努力支援制度が始まり、町内商工会有志が実施しているせとうちポイント会より町の健康づくりに協力できたらと賛同をいただき、個人へのインセンティブとして特定健診またはがん検診受診者へポイント付与する事業も実施していききました。30・9%だった受診率が毎年約3%ずつ上



受診率が上昇している集団健診の様子

昇し、現在では45・8%になりました。他市町村と比べるとまだまだですが、少しずつ日々の健康管理が浸透してきているのではないかと感じています。

健康の事を言う人と 認識してもらったために

「お元気ですか」「遠いところからありますがどうぞございます」「今年もお会いできてよかった」集団健診会場では関わる職員が来場者に声掛けをしています。小さな町だからこそ、お互いが認識できる関係性づくりが大事だと思ひ、プラスの一言をかけるように心がけています。一緒に保健事業に携わっている管理栄養士は定期的にラジオで健康にまつわる内容を紹介したり、町内で栄養士

会を立ち上げ地域の食の連携も図っています。また、野菜（ベジタブル）を1番目（ワン）に食べる、野菜を1品増やす、野菜でワン（奄美の方言でワン＝自分）健康という3つの意味を込めた「ベジわん」というキャッチフレーズを作り、あらゆる場所で伝えるようにしています。今回紹介した内容は一部の事業ですが、地域の特色を活かしながら、今後も一人ひとりの健康支援をしていきたいと思ひます。



ベジわん!プロジェクト